

●新刊のご案内

沖縄芸能のダイナミズム

——創造・表象・越境

久万田晋 [沖縄県立芸術大学教授]・三島わかな [沖縄県立芸術大学講師] =編

◎四六判並製 / 384 頁 / 本体 2800 円 / ISBN978-4-909544-07-0 C0073

[4月中旬刊]

喜怒哀楽が 歌になり 踊りになる

琉球の島々で生まれた「民俗芸能」、王朝で生まれた「宮廷芸能」、近代メディアによって広まった「大衆芸能」など、多彩でゆたかな沖縄芸能の数々。移民と共に海を渡った踊りや、電波によって日本全国に届けられた歌など、芸能は沖縄内にとどまることなく、現代に至るまで、時空間をこえてさまざまな展開を見せている。伝統と変容の間でゆらぎ、時代の変化に翻弄され、それでも人々のアイデンティティであり続けた沖縄芸能の300年を、さまざまなトピックから描き出す。

●主要目次

I 舞台芸能のいま・むかし——規範と多様性

飯田泰彦：八重山の祝宴に関する一考察——祭儀と饗宴 / 鈴木耕太：近世における組踊をめぐって——上演作品・舞台・小道具、そして近代への伝承

II 表象のゆくえ——継承と創造

呉屋淳子：伝統芸能の〈担い手〉とは誰か——現代から問い直す組踊の継承 / 三島わかな：地域の音文化は電波に乗って——戦前のラジオ番組にみる沖縄イメージ

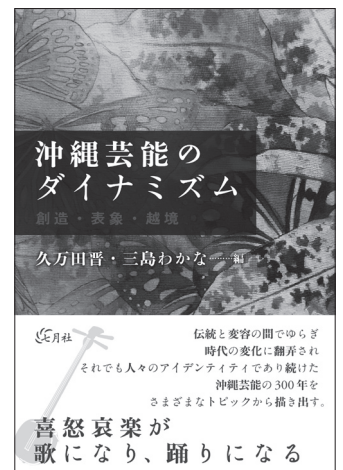
III 越境する想い——伝播と移動

久万田晋：エイサー伝播の現代的状況——沖縄本島北部・中部・南部の事例から / 遠藤美奈：ふるさとへの希求——ハワイ沖縄系移民と芸能 / 栗山新也：三線に積み重なる価値と人間関係——大阪の事例から

●版元より、書店の皆様へ

本書の原稿の大半は、2019年10月31日の首里城火災の前に脱稿されたものです。火災をはさんで編集作業を進めたわけですが、火災前／火災後で沖縄文化をとりまく風景が一変してしまったことを痛感しました。同じ原稿を読んでも、感じること、考えることが違ってきます。

2026年の首里城再建を目指すというニュースが先日もたらされました。首里城再建は沖縄文化の復興でもあると思います。迂遠な方法ですが、沖縄芸能の「これまで」と「これから」を考える本書が、その文化的な一助になることを祈っています。



株式会社 七月社

〒182-0015 東京都調布市八雲台 2-24-6 電話 / FAX : 042-455-1385

帳合・番線	注文数	発行：七月社 電話：042-455-1385
		久万田晋・三島わかな=編 沖縄芸能のダイナミズム 創造・表象・越境 四六判並製 / 384 頁 / 本体 2800 円 / ISBN978-4-909544-07-0 C0073

ご注文は JRC へ / FAX 03-3294-2177

*返品条件付き注文扱い

* JRC 経由ですべての取次への出荷が可能です